

子育て支援住宅建設に関する事業説明 会議録

日 時 令和7年6月26日(木) 19:30～21:50

場 所 活性化センター多目的ホール

参加者 137人

執行部 佐野和広町長、市川隆教育長、企画課(杉山、志村、林、佐野、市川)

本議事録は、冒頭ご承認をいただいた録音内容を基に作成しておりますが、一度に多数の質問を受けている場合等で十分に回答できなかった部分については、正確な回答を付け加えるなどの対応をさせていただいておりますことを、ご理解いただきたいと思います。

【司会】

司会を務めさせていただきます。企画課の佐野と申します。なにぶんお聞き苦しいつたない進行役でございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

まずは本題に移らせていただく前に、受付にてお配りいたしました資料の確認でございます。本日、皆様にお配りしております資料はこちら。

子育て支援住宅整備に係る建設候補地選定等の町民説明会の次第が一部。左上、ホチキス止めのカラー三枚綴り子育て支援住宅建設に関する事業説明の資料が一部。同じく左上ホチキス止めで白黒を印刷の五枚綴り子育て支援住宅事業に対する懸念事項(回答)の資料が一部こちら3種類。皆様お手元にごございますでしょうか？もし不備等がございましたら、説明等の途中でも構いませんので、お気づきの段階で挙手をしていただければ、こちらで差し替え等対応致します。よろしくお願いいたします。

また、本日この説明会につきましては、議事録の作成のため録音をさせていただいておりますことを事前にご承知いただければと思います。よろしくお願いいたします。それではお手元の次第に則って進めさせていただきたいと思います。

1、開会、開会の挨拶は南部町教育委員会、市川隆教育長より申し上げます。教育長、よろしくお願いいたします。

【教育長挨拶】

皆様、こんばんは。夜分お疲れのところをご参加いただきまして、誠にありがとうございます。今夜の会議は今、この町で起きていること。つまり、この町の現状ですね。それと、精度の高い将来推計に基づいたこの町の近未来像について説明をさせていただきます。そして、それを踏まえてですね。これから何をすべきか、何ができるか？について提案をさせていただきます。この後、町長の挨拶と、それから企画課からの説明について、皆さんにはよく吟味をしていただきたいと思います。今夜の会議が有意義なものとなりますことを願いまして、開会の言葉とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

【司会】

ありがとうございました。続きまして2、町長挨拶。南部町長佐野和広より皆様にご挨拶を申し上げます。町長お願いします。

【町長】

みなさん、こんばんは。大変暑い中また夜遅くお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。議題についての説明の前に、私から少しお話をさせていただきます。今回の案件はこれからの南部町を考えた時に最優先の課題であると、私自身ばかりでなく、職員一同の共通認識であります。

お手元にあります資料の出生数をちょっとご覧いただきたいと思います。2020年までの出生数が記載されていますけれども、その後翌年の2021年には18人。2022年には17人。2023年は19人。2024年は18人の出生数でありました。今年2025年は予想として15人ほどと予想されます。この数字は南部町全体での数字なんです。この数字を聞いた時に、たぶん、皆さんも衝撃を受けたと思います。

これまで町も子育て支援については、他町に負けないくらいの政策を実施して参りました。2014年（平成26年度）にはグリーンハイツ富士見を竣工し、2017年に富士見台分譲を手掛け、現在はどちらも満室で子供があふれております。それから2022年には子育て世代の人たちから「南部町に遊び場が欲しい。」との要望に応え、アルカディア多目的広場を竣工致しました。また、出産育児祝い金など様々な手当で支援してまいりました。

しかし、どんなに子育て手当を厚くしたところで、若い人たちの定住にはなかなか結びつきません。今年から第三次南部町総合計画がスタートしましたが、この冊子を作成するにあたり。若い人たちから多くの意見をいただきました。後ほど担当課から説明がありますが、子育て世代からの要望の中で、「住む場所がない。」住環境の整備を望む声が多数寄せられました。山梨県も共通認識の中で、この問題を捉えております。

そんな中で、町と県がタッグを組んで、この問題に当たろうということで協定を結びました。この政策を実現するためには、早くても二年近くの歳月を要します。ですから、早く手を打たなければ、町の今後の存続にも関わると思っております。これから担当課に説明させますが、その後、皆さんからのご意見を伺いたいと思いますので、よろしくお願いいたします。なお、今日5時ごろですけど、私のところに長崎知事から電話がありました。別件だったんですがそのときに、「今日、実は住民説明会するんだ」と、そういう話をしました。知事から「是非頑張ってほしい」、山梨県も全面的に協力するという、そんなお話がありました。それではさっそく担当から説明をさせていただきます。

【司会】

ありがとうございました。続きまして次第3の説明に移らせていただきます。こちらでは、まず、企画課課長補佐の志村より（1）から（3）までを資料に基づきご説明させていただきます、続けて（4）から（5）を企画課長の杉山よりご説明させていただきます。皆さまからのご意見・ご質問については、すべての説明が終わった後にまとめて頂戴できればと思っておりますので、何卒ご承知のほど、よろしくお願いいたします。それでは志村課長補佐より

しく願います。

【事務局@志村】

企画課課長補佐の志村と申します。着座にて失礼いたします。それでは、資料に基づきまして説明をさせていただきます。資料は、先ほど町長からのお話にもありました資料をご覧ください。はじめに、町の人口減少についてご説明いたします。本町の人口は、近年大幅に減少しております。上の表をご覧ください。5年ごとに国勢調査がありまして、2020年までは集計値になっております。2025年以降は予測値になります。1980年の人口と2000年の人口を比較致しますと、1602人減少しております。20年後になります2020年にはさらに3707人減少していて、予測では今後も減少し続けまして、2040年には4000人ほどになると見込まれています。その要因について見てみますと。転出超過については、昭和50年代にはすでに始まっていました。当時は出生が多く、人口減少率は低い傾向でした。その後、若い世代の転出が増え、出生数が減少し。同時に死亡率が上昇するなどの要因で人口減少が顕著になってきました。若い世代の転出は、大学進学や就職に伴って遠方に住民票を移すケースが見られます。これは防ぐことが難しいケースです。次に、近隣の市町村に就労先があり、結婚を機にその近くに賃貸住宅を求めて転出をするケースなどが多く見受けられます。近年は中部横断自動車道や富士川かりがね橋の供用開始等により、南部町と他市町村の移動時間が格段に改善されました。これは町にとって大きな利点となっています。交通事情の改善により、通勤に関する負担が軽減し、本町からでも充分に通勤しやすくなりました。賃貸住宅事情について見てみますと。町にあります県営団地は現在、空室が目立ちます。これは、所得要件などにより入居が制限される場合があることや。入居後に所得が増加して家賃が大きく上がる場合や、居住環境などに満足がいけないなどの理由から、少なくなりつつなる傾向が見受けられます。サンテラス内船については、町の管理になりますが、築年数や設備などの理由で若い人に選ばれにくい傾向がありますが、家賃が抑えられていることや、所得が家賃に影響しないなどの理由から、常に満室に近いような状態であります。そのほか民間所有の賃貸住宅も少なく。グリーンハイツ富士見については、常に満室に近い状態であります。このような住宅事情は、現在町づくりの課題となっております。日本では都市部に人口が集中します。都市部ですと、ゆとりのある居住空間は家賃が高いことから選択することが難しく。居住空間にゆとりがないことや、家賃など住まいにかかる経済的な負担などの問題から、少子化が進む傾向があります。山梨県の検証結果によりますと、住まいの満足度と理想の子供の数を持てている割合は、正の相関関係にあるということでした。結婚をして家庭を築く上で、住環境は大きな要素になります。ただし、住環境に理想を求めてしまうと、経済的な負担が大きく、子育てにかかる資金にゆとりがなくなってしまう。そこで、子育てしやすい理想的な住環境を町が整備して、経済力を子育てに集中して使うことができる環境があれば、子供を育てていく中で経済的な負担を取り除くことができ、安心して子育てができるのではと考えます。南部町には、子育て世代が選ぶような賃貸住宅が少ないことから、近隣市町の賃貸住宅を求めて転出をしてしまう方もいらっしゃいます。そのような

ことから廃校になりました。万沢中学校の校舎跡地に平成 26 年 3 月に 10 世帯が入居できて、子育て世代に特化した家賃設定の住宅を建築したところ、現在まで常に満室に近い状態です。また、その向かいの校庭跡地に、同じく子育て世代に特化した価格設定の宅地分譲をしたところ、10 区画すべてが完売し、住宅が建築されました。その結果、地区の人口が 70 名増えて、うち 19 歳以降の人口が 5 人だったものが 51 人となりました。

町民の子育て政策に関する意識についてご説明いたします。令和 6 年度に実施しました『まちづくりに関するアンケート』から抜粋した結果を掲載してあります。南部町に住み続けたいと回答した人は 69.9%となっていて、これは年齢を重ねるごとに増えていく傾向があります。施策の重要度として子育て環境を挙げた人が同じく 69.9%いました。町の将来の姿として望ましい物として、若者や子育て世帯が住みやすい町になってほしいとする方が、若い人を中心に非常に多くいました。生活環境の整備を図るために、今後特に力を入れなければならないと考える事業について質問したところ、若者世代独身世帯が入居できる賃貸物件を整備してほしいとする人が大勢いることが見て取れました。

以上のようなことから、町は若い人の転出を食い止めるための施策として住環境を整える必要を感じ。町民も若い人が子育てしやすい環境と、若い人に選ばれる賃貸住宅が必要と考えている人が多いことが分かりました。そのようなことから、令和 7 年度からの『第三次南部町総合計画』には以下のことが記載されております。抜粋になりますが、表の中の青字の部分が、今回検討している事業と整合している内容になります。上から読みますと、定住移住促進、魅力ある住環境整備、町営住宅等の整備というのがあります。次に子育て世帯の定住化を図る施策を早急に検討する。若い人が住みたくなるような住宅を整備する。子育て支援など、ニーズに合った優良な住宅。町営住宅等整備を促進。新規町営住宅等の建設を検討。若い世代向けの定住促進住宅の整備を促進します。などと、以上のような方針がそれぞれの項目の中に掲げられています。

次に、今回整備を検討している事業の内容ですが。建設を検討している集合住宅は子育て支援住宅として、メゾネットタイプで広さが 75 m²ほどを検討しております。一棟に 10 戸入れる長屋住宅を二棟建設できればと考えております。旧富河中学校校庭を第 1 候補地とした選定理由についてですが。町が建設を検討している建物の規模や生活インフラ及び生活利便施設の有無と以下の条件を満たす子育てに適した場所として判断をいたしました。まず広さですが、75 m²ほど、一棟 10 戸を二棟建設したいという想定での適地探しだったので、駐車場等を含めて相当な広さが必要になるということ。国や県の住生活基本計画によりますと、生活利便施設が整っているところが住宅として推奨されておりまして、生活・インフラ・電気ガス・水道・排水などが整っているところ。保育所・小学校・役場・郵便局・スーパーマーケット・ドラッグストアやコンビニ等、こういった生活利便が揃っているところなど、住む人にとって選ばれる場所として最適と判断いたしました。次に、早期着工等についてですが、土地を購入して建設となると、相当な時間がかかります。事業をスピーディーに実施するために、町が保有する土地を候補地として挙げまして、その中から選定をいたし

ました。また、土地を購入しないので、総建設費が抑えられること。他の町所有地と比べ、災害ハザードなどの規制が少ないことなどが土地の選定理由の要因でもあります。

ここまで長く説明させていただきましたが、南部町は様々な理由から人口減少が進行しています。中でも少子化や若年層の町外の転出がその要因として挙げられまして、人口減少がさらに加速をしております。若い世代がこの町に住み続けるためには何が必要なのか。安心して家庭を築き、子供を育てながら幸せな生活を送るためには、どのような環境が求められているのかを考えまして、町として住宅の建設が必要と判断致しました。このまま手をこまねいているだけでは状況は良くなりません。人口を増やすことは現実的ではないかもしれませんが、減少を緩やかにする施策が必要となってきます。現在の南部町には、住環境に対する選択肢は非常に限られています。町内で住まいを探している方や、町外に住んでいて南部町に戻りたいと考えている方。さらには南部町へ移住を検討してくださる方々のために新たな住宅事業を実施できればと考えております。

最後にグラフを載せさせていただいたんですが、左のグラフが日中に南部町内で何かしらの理由があって滞在している人の人数になります。5718 人いまして、南部町の人 が 4982 人で、身延町が 233 人などとなっています。南部町に来て働いているのか詳細はわかりませんが、そういった表になります。右の表は南部町にお住まいの人が日中どこに滞在しているかというグラフになりまして。6588 人中およそ仕事の人が多いと思うんですが、富士宮市がやはり多くて、次に身延町となっています。こういった傾向を見ますと、昼間は外にいて、夜は南部町に帰ってくるという、いわゆるベッドタウンの傾向がみられるかなと思います。南部町は、隣接する静岡県の 3 市を合わせると人口で 100 万人を超えるような大都市でして、急激に人口が増えることはないと思うんですが、ベッドタウンとしての可能性はあるのかなと思います。以上、説明の方、長くなって大変恐縮なんですが、よろしくお願いいたします。

【事務局@杉山】

こんばんは。南部町企画課の課長、杉山と申します。本日はどうもありがとうございます。私も着座にて説明をさせていただきますが、どうぞよろしくお願いいたします。

私からは次第の（４）と（５）について説明をさせていただきますが、事業概要等、志村から詳細説明をさせていただきましたので、私からは、その内容について重複する部分もあるかと思いますが、今までの経過を含めて説明をさせていただきたいと思います。

まず（４）の議員の皆様への説明協議ということでありますが、資料につきましては、こちら「子育て支援住宅事業に対する懸念事項」を準備いたしました。今日は資料についての詳細の説明は致しませんけれども、私からの説明に耳を傾けていただければと思います。

議員の皆様との協議ですが、議員の皆様は町民の代表と承知をしておりますので、事業を開始するにあたり、議員の皆様から集合住宅整備事業着手の意思の表明をさせていただきました。それを含め、大小４回の説明協議を議員の皆様とさせていただきました。その際、本当に親身となってお協議をいただきました議員の皆様には、改めてお礼を申し上げます。

たいと思います。ありがとうございました。本日配布しております資料は、その協議内容が示されていますので、後ほどご確認を頂ければと思います。

主な内容は、県との協定締結への経過や建設候補地の選定経過、その他懸念される事項について、議員からいただきましたご意見に対しての回答をあわせて掲載したものになります。

次に（５）の旧富中校庭利用団体との協議になります。こちらにつきましては、資料をご準備してごさいませんが、簡単に概要の説明をさせていただきます。

去る６月２０日に利用団体の皆様にお集まりいただきまして、長時間にわたり多数のご意見をいただきました。内容といたしましては、利用している皆さんに別の施設へ移動していただく際の利便性をどのように解決して行くのが主な内容だったかと思います。しかし、一部の団体からは、非常に厳しいご意見もいただいておりますので、町としてしっかりとその説明義務を果たし、できる限り要望にお応えする中で、ご理解を求めて行きたいと考えています。

それでは計画をしています住宅事業について補足の説明となりますが、お聞きいただきたいと思います。本事業は先程の趣旨説明でもありましたとおり、町の喫緊の課題であります人口減少や少子化の緩和を図るものであり、１０年後の南部町を見据えた第三次南部町総合計画策定に伴うアンケートの結果をもとにした町民ニーズにお応えする事業実施でもあります。また、その裏付け調査と致しましては、福祉保健課の協力も得ながら、乳幼児健診や子育て世代の集まりにおいて、聞き取り調査を直近でさせていただきました。お聞きしたお母さん方、ほぼ全員の皆さまから、住宅整備について賛成であるというお声を頂いたということ、ご報告をさせていただきます。その調査票がこちらにごさいます。

あわせまして本日、「本当ならば、出席をして、どうしても住宅の必要性について意見を言いたかった。」と、おっしゃるお母さんが企画課を訪ねて来られ、手紙を手渡されました。その内容をちょっとご紹介したいと思います。「子育て世代、賃貸住宅整備について賛成します。ぜひ建設して欲しいです。」二枚綴りで書いてあるんですが、抜粋をいたしますけれども、ご親族の家族が静岡から南部町に転入を希望されているそうです。「南部町で家族で生活をしたい。しかし、住むところがありません。賃貸・一軒家、そういうものがありません。グリーンハイツも空いてもすぐいっぱいになってしまいます。住む家がある前提でないと南部町に帰って来れない。できるだけ、住宅の整備を急いでいただきたい。」「現在、高校生や大学生がいるご家庭の子どもたちが、近い未来南部町に住んでくれるかもしれない。早々に決定と、早期に住宅整備が進みますことを願います。」というものでしたので、ご紹介をさせていただきました。

説明に戻らせていただきます。

本住宅整備は、他の自治体と比べ賃貸住宅が少ない南部町において、若者世代に町に留まって頂くことや、他地域から移住していただくための住宅の選択肢の一つとしていただきたいと、私たちは考えております。現在、急ピッチで進んでいます富士宮市内の大規模宅地

分譲等を考えた時に、「今やらなければ、今以上に若者の転出に歯止めがかからない。」と、町では懸念をしております。さらに南部町の子供たちが 10 年・20 年後に南部町に帰って「子育てをしたい、暮らしたい」と、思っていたいたときの受け皿として非常に大きな役割を持っていると思います。現在の子育て世代のため、またその子供達がいずれ子育て世代となったときの選択肢の一つとして必要不可欠であると思います。その上で、安心して子育てができる環境の整備についても、各計画に則って実施されていくものと思っています。

ちょっと余談になりますが、この時期になりますと、各町内の小学校の 3 年生が役場を社会科見学で見学に参ります。もちろん企画課にもきます。すでに二つの小学校は終わっていますが、明日また別の小学校が参ります。業務内容の説明をし、最後に子供達に「みんな大きくなっても南部町に帰ってきて、暮らしてくださいね。」と、必ずお願いするようにしています。今回の子供たちの中で、「僕は南部町に帰ってきます。」と、はっきりと言ってくれた男の子がいました。なんか、身が引き締まる思いがいたしました。こんなことも、ちょっと心に秘めながら事業を展開して行きたいと思っています。

本日ご出席をいただいた皆様、また住民の皆様には、何卒ご理解をお願いしたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

【司会】

それでは続けて 4、ご意見ご質問についてに移らせていただき、皆様から忌憚のないご意見を頂戴できればと思います。なお、大変恐縮なのですが、時間にも限りがございますので、今回、町長、教育長も臨席されている貴重な場ではありますが、今回の説明会の趣旨であります子育て支援住宅整備事業に関する事。また、その候補地選定に関する事以外のご意見について、ご遠慮願えますと幸いです。また、失礼ながらこちらでご指名させていただく際には、お席の位置や性別や召し物の色味等の特徴にてご指名をさせて頂くという形を取らせて頂きますが、何卒ご承知願えればと思っております。それではご意見等ございます方はその場で挙手をお願いいたします。係の者がマイクを持ってお席まで参ります。いかがでしょうか。

【中央区 〇〇〇〇】

いくつかの点にわたってわからないことが多々あるのでお聞きいたします。

①まずこの説明会ですが、建設候補地選定等の説明会ってありますけど。その前に、子育て世代住環境の整備及び効果検証に関する県との協定についての説明会っていうのはないんですね？これが一点。

②協定書そのものは、どういう文面のどういう内容の協定書なのかどこにも書いてない。これじゃあ審議しようがないし、わからない。

③3 つ目に、10 年来この問題は町で検討してきたとおっしゃいますが。何日でこれをやろうって決めたかって 4 日間ですね。知事と話をしたのが 2 月の 5・6 日。次の日にはもう企画課で検討して、10 日には協定締結の確認をしている。で、14 日からさらにその詳細についてメール等で打ち合わせに入ってる。で 3 月 28 日に締結した。で、この間に議員への

説明を3月4日、町民への説明は何もない。10年来大事だと思ってきたこの問題について、たった4日間で住民をないがしろにして、議会もないがしろにしてもう締結してしまった。私はホームページで見たんですよね。だけど、どういう締結なのかは一切ホームページでもなかった。だから、何をするんだろうか全然分からない状態であります。ただ、住宅を作ろうということはわかります。それと同時に、県との協定で結果を急ぐようですが、10年来検討されてきた問題が二年やそこらで結論が出るわけがない。でも結論を出そうとしている。この急いでる理由がよく分かりません。

④それから、少し手を加えれば住める古民家というのは、南部町には何件あるでしょうか？新しい箱物を作るのも大事かもしれませんが、古民家のブームもあるんですよね。すると南部町にある、少し地元の大工さんに頑張って頂ければ住めるようになる古民家住宅は一体何件あるのでしょうか。そういうことについてどこかに行っちゃって、富中跡地で良いかどうかとか、そういうことの論議をこの説明会でするっていうのは筋が違っていると思います。

⑤同時に、もう今年の12月には工事者の決定をするとなってますが。公募になります。公募とあるけれど。町内の業者は優先されるのか。もしかしたら、もうすでに株式会社■■■■。株式会社■■■■に決定しているのではないかと。そういうことも考えます。

そういう点について、たくさんで申し訳ないんですが。具体的にお答えいただきたいと思います。

【事務局@杉山】

①まず、県との協定につきましては、先ほども申し上げた子育て世代の住環境の整備及び効果検証に関する協定ということで、協定書は手元に御座いませんので、詳細の内容となりますと、間違った発言ができませんので、確認して説明致しますが、ただ協定の中には、あまり詳細の項目が書かれておりません。

【中央区■■■■】

書かれていてもいなくてもいいんですが、協定書をちゃんと出してくださいって言うんです。協定書は今後、町民にちゃんと出す予定はあるんですか？

【事務局@杉山】

②今手元にありませんので、事務室にもちに行ってコピーをしてみます。ご提示をさせていただきます。

【中央区■■■■】

議会だよりでもなんでもいいですから。今ここで出してくれなくてもいいんです。だって、出されたって審議しようがないじゃないですか。ね。だから、みんなに行き渡るように、その協定書の詳しいものをちゃんと出してください。それから先ほど言われた経過。いつ、知事と何の話をしたのか？それから。4日間でこうなったのはどうしてかとのいうのをちゃんと。そういう説明もそういう広報でももらいたいですね。それはどうですか？

【事務局@杉山】

(追加) 協定書につきましては、ホームページに追加掲載いたします。協定内容については、4月1日にホームページ上にて掲載済みです。ご確認ください。

③それでは、本日お配りをしております、「子育て支援住宅事業に対する懸念事項」の過去回答の資料の詳細を見ていただきまして、黒い太い文字で書かれている部分が、議員の皆様からご質問いただいている項目になるんですが、その回答が矢印以下に書かれております。矢印の部分から11行目。まずは今回の協定締結に至った経過をご説明致します。

ただいま■■■■様にもご指摘いただいたように、町は10年来住宅施策について、いろんな方法を考えていました。そちらにも記入がしてございますけれども、サンテラス内船を家族用にもっと広いスペースで利用ができないのか、二つの部屋を一つにつなげて使用することができないのか、などを模索したところ、あの建物は壁構造と言う建物で、壁で耐震化を図っているという理由から壁を抜くことは不可能と判明をしております。

また、県営住宅の関係なんですけど、先ほどもちょっと説明をさせていただきましたが、公営住宅法による収入要件によって、共働き等になると収入が多くなって入居ができない、家賃が非常に高くなってしまいう状況にあります。そのような状況を何とか緩和をしていただきたい等を、町長より知事に要望していたわけなんですけど、なかなか良い回答が得られなかった経過があります。そういうものを経て今回、次の手はないかということで、企画課はじめ住宅を管理する建設課とも、色々と模索をしていたところです。

そんな中、2月の5日6日に町長が研修会に出席を致しました。席上で知事と少子化に対する話題となり、山梨県も南部町も一緒に同じ方向を向いて取り組んでいくとの同意が図られました。

早速、翌日7日に南部町では「新たな住宅の整備を考えていこう」と関係課の課長が集められ、庁内会議を実施しております。その後県の職員とも、何日かの協議を致しまして3月28日にその協定締結日を決定しています。

それを受けて3月4日の定例会の初日に議員の皆様にお集まりをいただきまして、経過と3月28日に県と協定を結び、これから子育て対策に取り組んでいくことを、町長から表明をさせて頂きました。

その際にも、「ちょっと急ぎ過ぎの事業ではないのか」とは、議員の皆様からもご指摘をいただいているところですが、3月4日の後も4月25日、5月21日と議員の皆様と協議をし、5月30日には「懸念書」の提出を受け、6月3日には、回答書を提出致しました。また、6月11日には回答書の再協議をさせて頂いたと言う経過になっております。お答えになるか分からないですけれども、現時点で、喫緊の事業に対して短期間ではありますが、議員の皆様と十分に協議をさせていただいたものと理解しています。

その協議の中でも、旧富河中学校グラウンドを第一候補地とさせていただきましたので、そこを利用している利用団体の説明会を6月20日に実施をさせていただきまして、本日の町民説明会という順で進めております。

あと資料の7ページの10になりますが、こちらに「県との協定内容の内容」、また「建設にあたって県補助を得られるのか」という質問への回答がしてあります。また、本日もご出席をいただいております芦沢潤一郎議員からの一般質問の中でも回答させていただきましたので、FM告知等を通じても放送されているかと思います。

(追加) 協定締結時の内容はホームページ内に既に掲載されていますので、内容も含めてご確認ください。

(追加) 今まで町が締結している各種協定においては、議会への事前協議をしている案件は、ほとんどございませんが、今回の協定につきましては、事前に議員の皆様へ報告を行っております。

④町にある古民家等を活用したらということになります。

町では、令和5年度に空き家の調査を全町にかけております。その中で509件の空き家があるということが結果として出ております。ただ、その空き家がすべて、すぐに空き家バンクに登録され、子育ての世代の皆様に使えるかというと、なかなか難しい話でございます。また、なかなか空き家バンクに登録をしていただけないというのが現状でございます。その理由といたしましては、相続登記等が終了していないため売買ができないということが大きな問題になっております。ただ、南部町の現状を申し上げますと。令和2年から令和6年末までで、空き家バンク登録数が42件ございました。その中で成約に繋がった件数が40件ございます。40件すべてが移住をしてきたかというのではなく、二拠点居住の方もございます。

さらに、調べてみますと令和2年度から6年度で、転入者がどういう理由で転入してきているのかは申し上げることはできませんけれども、5年間で687人います。これを年齢別で確認をさせていただきたいと思います。この中で0-4歳の子供がどのぐらい転入してきたかという、35人。5-9歳が16人。10-14歳が11人。15-19歳が20人。20-24歳が81人。25-29歳が89人。30-34歳が63人。35-39歳が68人と、40歳未満ということでカウントさせていただきますと383人になります。それ以外はそれ以上の年齢層になるということでご理解をいただきたいと思います。これだけ南部町に転入をしてきている方がいらっしゃいます。

企画課窓口を訪ねて来られる移住希望者の希望を聞きますと、空き家を求めてくる方々のほとんどは、賃貸物件を探しております。賃貸のアパートとか、「そういうものありませんか？」となります。たぶん、移住を希望される方でも、さすがに、いきなり物件を、自分の資産として購入するというのは、なかなか難しいのかなと、現場としても感じています。そのようなことも、今回の賃貸住宅の施策についての要因となっていることです。10年来、南部町が考えてきた一つの要因、結果であるということでご理解をいただきたいと思います。

(追加) ⑤ 〇〇さんご指摘の、12月の業者決定や公募等は、現時点で確定している情報ではございません。まして、示された業者2社については、私共も初耳の社名であり、

困惑しているところであります。

【内船中区 〇〇〇〇】

あまりよくわからずに来てますので、ちょっと外れた質問になるかもしれませんが、いくつかお願いしたいというふうに思います。

①まず、あの、いくつかアンケートを出していただいたりとか、説明していただいたんですけども、アンケートの精度という部分が出されてましたけれども、そのあたりの精度が高いのかどうなのかってことですね。アンケート自体がどのような方にしたのか、何人に回答してもらったのか、どのような年代別にしてもらったのか、それからいつやったのか。そのあたりがないとアンケートとして、この提示については不適切かなというふうに思いました。で、どの部分を聞いてられたのかわからないんですけども、そうなってきた場合には、えっと、賛成意見の方の住居環境などに満足がいかないなどの理由がある。それから、町民、若い人が子育てしやすい環境と若い人に選ばれて賃貸住宅が必要と考えている人が多いというふうに文言としては出てますけれども、何をもってこの多いという言葉になってきたのかという、その精度の部分と、それぞれのアンケートについて、いつ誰にどのような形でしたのかってことをまず教えていただいたほうがいいかなと思います。

②で、そうなってきた時に、先ほど杉山さんの方からありましたけれども、聞き取り調査を行ったけれども、ほぼ全員からと言いましたが、3人でも全員ですね。10人でも全員ですね。なので、そのあたりのアンケートの精度っていうところをしっかりと出していただけならというふうに思います。なので、その後ろのところにありました議員さんのところがありましたけれども、精度については不確実だと。何とも言えない部分がありますという回答であるならば、アンケートとしてはどうなのかな、なんてふうに思いました。なので、まず南部町民がみんなやはり住宅が欲しい、子育て世代の住宅が欲しいと考えているのかどうなのかっていうところがまず見えてこないの。すみません、私も今回初めて来させていただいたのであれなんですけど、皆さんがそういうふうに思ってるのかどうなのかってことがよく見えないので、そのあたりはしっかりと説明していただいたほうがいいかななんて言うふうに思いました。

③まずそれと、先ほど十年のスパンでと言われましたよね。ですけれども、その10年の中で定住率が高まるかっていうと、回答の中に全国的に見てもそれは考えづらいというふうなことが回答欄の中にありますが、であるならば、そもそも10年のスパンの中で、その賃貸住宅の方が必要になるのかどうなのか。10年後の世界を見返した時に、それが必要なのかどうなのかってとこまで検証して、建設にあたる必要があるのではないかなと思いました。なので、その辺りをちょっとお聞かせ願えればと思います。

④それと、もう1件なんですけれども、富河中学校の校庭を利用した場合に。半分から2/3でしたっけ、使えるようになってと言われたんですけども、現在富河中学校を使わせていただいて、半分から2/3があっても、活動もやっぱりできづらいかなと。残して頂けるといような回答いただいていますけれども、であるならば、別の代替地の方考えていただい

たら。嬉しいかなと思います。そのあたり、教えていただけたらと思います。

【事務局@杉山】

①まず、アンケート調査ですが、どのアンケート調査の質問なのかがはっきりしませんけれども、まず一番基本となっておりますのが、総合計画を策定する際に行った、令和6年度に行っておりますアンケート調査になります。そちらが自動抽出した町内の1500人に郵送でアンケート調査用紙をお送りしております。回答として帰ってきた方が548人。約36.5%の回答率だったということです。その回答内容の中で、先ほど志村から示しました「子育て環境、賃貸住宅を整備してほしい。」そのような回答がおよそ何パーセントあったという結果が出ております。

【内船中区 〇〇〇】

何パーセントかわかりますか？

【事務局@杉山】

先ほど、やはり志村から説明をさせていただいたんですが、この資料に書いてございます。3ページの上段に書いてございますので、ご覧いただきたいと思います。南部町はこういう数字をもとに住宅施策に、踏切っているということです。

で、もう一つのアンケート調査になりますけれども、そちらは前回20日（利用者団体説明会）にもちょっとご指摘をいただいているんですが、企画課では、「子育て環境、賃貸住宅を整備してほしい」と、言っている若者世代に対して、QRコードを読み取っていただき、質問に答えてくださいというアンケートを実施しております。説明が足りなかったことは、私どもも反省しておりますが、なぜこの形式にしたのかは、やはりそれに対応できる若い人たちが、「どういう立地条件」で「どういう住宅を望んでいるのか」という数字を吸い上げたかったというところで、実施しております。5月の一ヶ月間の調査でございます。結果は111名から回答をいただいております。年齢では30歳、40歳以下がおおよそ2/3。50歳以上が1/3ぐらいの割合で回答を頂いております。その質問の最初に、賃貸住宅が南部町に「足りているのか、足りていないのか」を聞いています。もし「もう充分にある」と答えていただいた方は、それでアンケートが終わりになるようになっていますが、「不十分である」と、答えた方は、「どのような条件の物件が欲しいのか」というものを、データとして吸い上げたいとの趣旨で実施をしております。その結果につきましても、ホームページに掲載しておりますので、後日ご確認いただければと思います。

【中央区 〇〇〇】

そのアンケートは締結後ですか？

【事務局@杉山】

はい、締結後です。そちらは若い方々がどういう住宅を望んでいるのかっていうことのデータ収集をしたくて実施しております。

（追加）5月中のアンケート調査だったと回答済みです。

【中央区 〇〇〇】

その時には富中も候補地も。それから。いろんなものを全部ほぼ決めた後のアンケートですよ。

【事務局@杉山】

富中にもう確定というわけではございません。その間も、現在もそうなんですけれども、第一候補を旧富中のグラウンドとさせて頂いております。それにつきましては議員の皆様とも協議をさせていただいていますが、ほかの候補地も、もちろんあげていく中で、どういう状況の場所であるかを検証し候補地として決定しています。他の候補地についても一つずつ説明もさせて頂きました。

また、議員の皆様からも候補地を二つ三つ挙げていただきました。それについても町では調査、協議をして、候補地としては考えられない理由を、お答えしている経過がございます。

【内船中区 ■■■■】

アンケートの、やはりその部分ですよ。あの精査の部分だと思う。精度の部分だと思うんですけど、今教えていただいて分かったんですけども、いつやったのかっていうところがやっぱり問題になっていて、その前から南部町の課題として、こういうものが課題であって、締結してこういう風な形で進んでるってなるならば、アンケートしても必要だと思うんですけども、そうじゃなくて、何もない段階で南部町としての課題と言うことではないと捉えていいですね。締結が終わってからで、住宅を建設するっていうことがあつてのアンケートだつてとらえればいいってことですよね。あの、お分かりになりました。すみません、あの、私は何も知らなくてきたんですけども、このアンケート調査はすみません、ネット環境も充実してないので、あのホームページも見れないんですけども、例えば見たとしても、そのアンケートいつ取ったのかっていうところとか、年代とか、そのアンケートの内容であつたりとか。その精度の部分は非常に重要ななと思っていて、南部町の課題として住環境が必要だつていうことがあつて、締結してっていうふうにあるならば、これは非常に必要なことだと思うんですけど、そうでないものであるならば少しでもあたりが揺らぐかなというふうに思いました。なので、えっと。いつまで喋っててもあれなのでとなってきた時に、アンケートの精度という部分からもう一度を考え直していただいた方が良くかなと思うことを提案させていただきます。で、あとは先ほど言いました富河中学校を利用するのであるならば、半分から 2/3 であると利用できないであつたりとかについて。回答いただければというふうに思います。すみません、長々と申し訳ありません。

【事務局@杉山】

②今回 QR コードを読み取つてのあのアンケート調査については、5 月中ということで実施をしております。で、なぜ「住宅政策に踏み切っているのか」というのは、先ほども申し上げた通り、総合計画を策定する際のアンケート調査を基にしておりまして、その総合計画が 10 年後までの計画ということで、本年 4 月 1 日から執行期間がスタートしております。それに伴って今回の協定の趣旨も合わせて、若い方々がどういう住宅を求めているのかという調査を実施したということで、ご理解いただきたいと思います。総合計画に基づいて実

とし渡されている県と町との協定の内容。これ県の役割を読むと、これ県営事業じゃないですか。なんで町が主体でやるんだと。県がやるべき事業ですよ。それをその候補地として南部町を入れたと。だから南部町協力してくれなければわかるんですよ。そうじゃなくて、県がこういうことするから町が主体となってやれですよ。しかも候補地でもなんでも全部県じゃないですか。この協定書読むとあとでこの協定書はみなさんに渡すということですから、渡したらこれおそらくすごい。こう勝手に言っちゃいけませんけど、あれがあると思うんですね。それでですね、あの、なぜ俺はね、富中のグラウンドは反対かと言うその一点だけ話をしようと思ってきました。ここに交通防災課もいませんからあれでしょうけど。災害という防災をどう考えてるかですよ。今から起こりうる災害は、今まで俺たちが経験してないようなものすごい災害が来るかもしれないですよ。その時が来たら、あそこに土砂を運べ。倒壊家屋を運べ。そんなことしたら間に合わないじゃないですか。石川県の能登半島みればわかるじゃないですか。ですから、前もって全部そういうことをしておくんですよ。総合計画では載せてくれてるんでしょうけども、そうした時にこの町だって土砂災害だってあるはず。ないと言って否定をして欲しくないんですよ。すべての。あれを否定、あの防災災害を対策してほしいんです。それで、その時に旧富中のグラウンドというのは。許可もなにもなくその時の町長さんの裁量でできるじゃないですか。あるいはそういうこともなかったとして。皆さんが今度はあの仮設住宅をどこで立てます？仮設住宅だって必要でしょう？そういう時には。しかもそういう場所に。あの、こういうグラウンドはとっておくべきなんですよ。すべて。配ったようですけど、これからの避難者は、例えば今一生懸命やっているお子さんを持った家庭。ご夫婦の家庭。男性、女性って全部分けた場所を作ってやらないとかなり問題になるってどこでも言ってるじゃないですか。そういうことを全部こう考えた時に、富中のある体育館と富小の体育館とか、ここの一帯はものすごいあの町全体の拠点になるんですよ。災害対策のそこをこの住宅一つだけで。潰しちゃって。俺は悪い政策だと思ってないんですよ。人口が減るって事は大変なこんだし、いろんなこともあって、皆さんが努力していることもよくわかります。だけどここはね、場所が悪すぎますよ。選定の場所が。先ほどもあの課長からもありましたけど、これあの。近隣のここに載ってないんですけども。■■■■さんから頂いた資料にはね。確か、■■■■さんの方から。近くにすごくいい土地がある。民有地があるって、提案した■■■■さんが居るらしいんです。そうしたら、その答えが即座に。時間がかかる。財源がかかる。これじゃ情けない富中のグラウンドと言ってるなんかさっぱり分かんないんですよ。なんか一番簡単な方に考えているようですけども、そういう災害とか防災を考えた時には栄小の跡地、あそこものすごく大事なんですよ。とんでもなく大事なところがいっぱいあるんですよ。だから、その広い空間はとっておくべきです。町有としていうのを。自分の考え方なんですけれども、ぜひ参考にして欲しいと思ってます。そして、もしですね、■■■■さんも教えてくれなかったんですけども、この近隣にいい場所があるんだと。もしあれだったら、あの、教えてほしいけどといっても、そこは■■■■さんも口を濁しましたけども。ただ、あの何かというと、財政面がかかり急ぐんだと。時間がな

い。なんでここでバタバタバタバタ。こんなあったことするんですか？しかも本当にあの。先ほども言いましたけど。まあ、これはあの町会議員さんでも説明してあれだということですから、あまりあれじゃないんですけども。県と町長と協議内容など。これ県のしたい事業ですよ。町が主体となってやるべき事業ではないその内容が。だから。ものすごく県が言っていることに矛盾があるんですよ。しかも県営住宅だって空いてるんですよ。それは色々なあれでこうだ、ああだって理屈をつけてますけど、県営住宅が一人でも 2 人でも入れるようにしてもらえればいいんですよ。それを一生懸命、平の県営住宅はかなり空いてるって話ですから。しかも環境が悪いからとかそれを直してもらうんですよ。県に言って。築 30 年ですよ。百歩譲っても、これは同時進行ですよ。それでもう一つ言わせてもらおうと、実際にあの子育て、子育てのためだ、子育てのためだって言葉を僕たちは使いますけれども、実はあの何年か前から児童館を何とかして欲しいと。言う声も、すごく聞くんですよ。そしてつい最近、えっと思ったのは。保育所が雨漏りする。そんなことをしておいてですよ。片方でそんなことをしてうっちゃっておいて、片方ではこうだこうだ、では少し矛盾しすぎてますよ。ですから、そこは僕が言うのもおかしいんですけど、ぜひあの杉山課長さん、こういう意見もあんまり無視しないで、そういう意見もあったということだけは、あの。胸に置いて欲しいんです。

それでもう一つ出してもらおうと。あの、道の駅の屋根。あるいは、富中の体育館の屋根の色を見ました？さめっぱなしですよ。なんであんなことしてるんですか？この町へ来て、この町が生き生きとして感じるとしたら、すぐそこにある役場。役場を中心にしてきちっとしたことを。「あ、きれいな町でいい町だ」って見せなきゃダメじゃない。はいってきたいや、これじゃって、よく耳に入ると思うんですよ。一步入ったら農地が荒れ放題だと。そんな町に人が移住してみたらとんでもないところだ。じゃあ困るじゃないですか。そういうことをずっと町会議員さんなんかみんなでこう見るとやってくれてるようですから。少しだけきれいになってるんですよ。本当、その、綺麗になったところを見ると、ある人は自分のとこ行った人が、町が綺麗だと言ってくれたんですよ。そのぐらい大事なんですよ。農地の整備もきれいに見せるという事は、この町はまあ、あれですよ。あまりにもそういう点が欠け過ぎてますよ。もっともっと今、既存のものを、あるいは、既存の子育てをしてるお父さんお母さんは、もっとその意見を聞いて、いろんなことをしていかないと、本当にあれだと思うんですよ。

それでもう一つ、あの、去年の 6 月ですか。空き家等なんとか対策って、県とも協議協定を結んだ。本来、町が主体となってできることを、何で県と協定しなきゃいけないんですか？まちづくりというのは、町が主体となって作っていくんですよ。そして足りない部分。いろんなことを。県なり、国なりをお願いをして。財政的な援助してもらおうとか、いろんなことしてるんですよ。そこが少し皆さんは慌てまくってやりすぎてるから。ここは 1 回。もう一度。あの、何ていうんでしょうかね。あの。腹決めてじっくり取り組むならいいですよ。総合計画にも載せてあるようですから、その総合計画の実施計画に 5 か年計画が何か作るで

しょ。そしたら、それをきちっと移していけばいいじゃないですか。ここへきてバタバタして、富士宮のすごい分譲地ができるから。できたから。そっちにみんな行っちゃうな。もともとこの町はそういう町とかものすごいあれじゃなかったですか。皆さんがずっと十年間やってきて苦しんだはずですよ。だから、そこを今バタバタバタバタしてもしようがないから。ただ俺、あの。150 歩下がって、実は、富中のグラウンド以外のところで、議員さんがあげてくれた民有地があるんでしょ。持ち主さんとの交渉があるから遅くなる。土地を購入するのにお金がかかる。そんな理由でだめにするような土地かどうか。まあ、どこの場所か分かりませんから、あれですけども。その場所はどこかだったら教えてください。その場所がいい場所だったら、本当に協力しますよ。一生懸命。それこそ俺が協力してもしようがない。でも、そうしてやっていけば、空き家対策だって一生懸命やってくれる人がいるじゃないですか、町にも。一生懸命なのだから、町を見て一生懸命やってくれる空き家対策をなんとかしなきゃって言って、空き家を紹介して一生懸命してくれてる人が活躍してくれる人がいるじゃないですか。そういう人は、そういう人たちを大事にしてしていけばいいんですよ。その場所がもしここで発表してもいいということであれば、参考として考えさせていただきたいと思うんです。ですから、そこはまあ無理だ、それは言わないということであれば結構です。大変長々と生意気なことを言って、ゾンビのような人間が、あの生意気なことを言いましたけれども、まあ、心の片隅でちょっとだけ置いていてください。以上です。

【事務局@杉山】

すべてにお答えできるか、ちょっとわかりませんが、まず総合計画に関しましては、今年の 4 月 1 日から 10 年間の計画と言うことで、今回は、お子様から若いお母さん方が一緒にその総合計画に目を通していただきたいという企画課の思いがございます。宮西達也先生に描いていただいた絵を表紙にし、基本構想については半分を宮西先生が南部町のために書き下ろした絵本を掲載しています。お子さんとお母さんが一緒にそれを見ていただける。そういうところに今回はコンセプトを置いて作り上げてございます。それが本年 4 月 1 日からの施行になりますので、■■■■さんのご指摘の通り、どの程度実施ができていのかはちょっと微妙でございますが、いろんな公共施設の屋根の色等、各課において公共施設管理計画等に則って随時、実施していくということで、ご理解をいただきたいということと。

今申し上げられる代替え地となる民地ですが。どこっていうことは、私の口からは申し上げられませんが、なんとなく悟っていただける情報だけ申し上げますと、今現在、福祉施設の職員が駐車場としてご利用になっている土地で、そこにはまだ鉄筋の屋根みたいなもの残っていて、すべてがコンクリート敷きになっております。もしそこを購入し、そのコンクリートを片付け、屋根を解体するということになりますと、造成費だけでもかなりの金額が必要になるのかなということで、議員の皆様にはご理解をいただいたところです。そちらの面積が、全体を見ても大体 3800 平米ぐらい。建屋部分を抜きますと、だいたい 2500 平米ぐらいの広さになるところまでは、調査をしてございます。その辺につきましても、真摯に私どもも受け止めまして、調査をしているということでご理解をいただきたいと思います。

す。

そして今回、この住宅をなんでそんなに急いでるのかについてです。先程来、説明をさせて頂いておりますが、併せて6月5日に各新聞紙上で国の出生数の推定が15年早まったて70万人を切ったというものです。国の予測が15年早まってしまった。こんなことも理由の一つであり、本当に減っているっていうのは私どもも痛切に感じていたところです。各新聞でも3ページにわたって取り上げているような状況です。最近で言えば長嶋茂雄さんが亡くなって、新聞紙上が賑わった次ぐらいに「大きな取り扱いではないかな」と、個人的にちょっと思いました。第三次総合計画のまず大きな事業の手始めとして、町長も今回の集合住宅整備を踏み切っていると、私たち担当職員も理解をしていますので、何とか早くに完成させていきたいという思いでおります。ちょっとお答えになるかどうか分かりませんが、ご理解いただきたいと思います。

(追加) 決して県営事業ではありません。賃貸住宅整備については、あくまでも第3次南部町総合計画に則って実施するものです。ただ、社会情勢やそれに伴う県との協定締結がそのタイミングのきっかけになったとは、思っています。

また、候補地となった場所のほとんどは、町有地です。

(追加) 空き家について協定を締結いたしましたのは、ホームページや広報でもご紹介しておりますとおり、令和4年4月と令和6年7月の民間との官民連携協定を締結しています。県とは締結していません。参考までにこの官民連結協定の成果として、「空き家の解体が終了できた」1件。「古民家ホテルとして本年中のオープンに向けて進んでいる」1件の実績がございます。

(追加) ご指摘をいただいております公共施設の管理につきましては、各担当課において、公共施設等総合管理計画などに則って、計画的に進めていくものと理解しています。また、荒廃した農地等の管理については、個人の財産であるため当然持ち主が管理をしなければならないと考えますが、今後解決策があるとすれば、町民と行政が協働で検討していかなければならないと思います。

(追加) 質問中の下線部にてご指摘の「保育所の雨漏り」の件ですが、令和6年度末に対応済みでございます。

【町長】

せっかくですから、XXXXXXXXXXからお話がありましたので、私からも、お話しさせていただきます。冒頭申し上げましたように、ここ数年来の出生数は、17年の17人から20人の間なんです。非常に私、衝撃を受けております。いろいろと子育て支援策をやりました。そして一つには、将来的に中部横断道ができ、富士川かりがね橋ができれば、働く場所等が近くなり最終的には、子育ての環境を整えることができれば、若者世代が戻ってくるんじゃないかなと思っていたんです。ところが、なかなか、そこまで上手くは行きません。で、県の調査結果があるんですが。どういうことかという、やはり、「住まいの満足度が理想の子供数の実現に寄与している。」こんな調査結果が出てるんです。私は、これを踏まえまして、

2月5日知事と私、同席でしたから、いろんな話をしました。「南部町も子供の数が少なくて困るんだ」、「どうしたらいいんだろう」という内容の話を知事としましたら、「その思いは山梨県も同じなんです」。そして、住環境の整備ができることによって、「子供たちの数が増えるって、そういう事例があるんです。それなら町長、県と一緒にやって、やっぱりそれに向かって突進しましょう」と。私は、この住宅整備は、県の補助金の問題じゃないと思っています。私は、町のお金でやるだけの財源を蓄えました。間違いないです。それはあの財政調整基金他82億あります。ですから使えるんです。そして「県の支援は、子育てのためのいろんな支援策をお願いしたい」と、それが私の希望なんです。将来的には本当に厳しい状況だなんてことは分かっていますから。

防災に関しては、私はもともと[]さんから後を受けて町長になったわけですけど、その時の一番の思いは、「防災に強い町にするんだ」ってことで、私は立候補をしました。そして、これまでいろんなことをやってきました。ところが昨今、非常に多くの、大変な災害がありますね。能登半島もですが毎年のように起きてます。これはもう本当に大変だなと思っています。

で、旧富中校庭に集合住宅を作ったときどうなんだってことでありますけど、実はそれも充分検討した上で結論を出したんです。これができればいいなど。その代替となる場所は、例えば富沢小グラウンドや富沢野球場であるとか。それからいろんな学校もありますけど、総合センターの2階3階を使ってもらうとかで対応します。また、非常に大きな災害があった時には、この峡南地区は身延のクラフトパークなんです。あそこに災害の大部隊を作るといような、話になっています。ですから、もちろん重要な場所ではありますが、町内の小中学校やグラウンド、アルカディアを、フル活用して非常時には対応していくつもりでおります。まあ、これで答えになってるかどうかわかりません。

それからあんまりのんびりしていたら、町の存続すら危ぶまれてしまいますので、今やらなければです。今年の小学校一年生が30人で、この30人のうち町内で生まれた子は20人弱なんです。あとの10人は転入です。幸いにも戻ってきた人たちなどによってなんとか持ちこたえています。でも今の状態だったら間違いなくもっと減っていきます。そうすると最終的に富沢地区と南部地区に一つずつ、なんとかこの小学校を残していこうという思いだったんですが、この調子で行くと一つになる可能性だってあります。でも、それだけは絶対にしたくないんです。その為にも、あらゆることを私はやるつもりでおります。その一つがこの住宅政策です。なんとかご理解をいただきたいと思っています。

(追加) 下線部の交通防災課の見解

別紙

【[]】

あの、別に俺、政策論争するなんて、さらさらないですよ。ただ、町の方角として急ぎ急ぐと言ってますけど、今の町長の話と杉山課長の話や、まるで違うじゃないですか。財政がか

かる。急がなきゃならないんだ。財源がかかるとか、そんなこといいじゃないですか。町長がそう言ってるじゃないですか。だからその第一がどうか先ほど今どう考えてもわかりませんから読みませんし、またあの手を挙げています方おられますから。あの、これでやめますけど、別に俺は町長と政策論争しようなんて思って来たわけじゃないです。以上です。

【町長】

私の方から言いますと、まずですね。これが最終じゃないです。私は第一段階としてこの事業を成功させて、それから例えば分譲地もいくつかやります。例えば、もとのびゅあ峡南跡もあります。その他にもいくつかありますから。そういったものは、その予算の中で進めようと思ってます。

【事務局@杉山】

ではもう1点■■■■さんの土地の購入のお答えで、財源の問題もあるんですが。ただ、町はこれから10年、20年先を見据えた時に、公共施設っていうものも、少しずつ集約化を図っていかなければなりません。将来の子供たちのために努めていかなければならない。新たな資産を増やさないといいところも重要です。一つの観点としての判断ということで、ご理解をいただきたいと思います。

【中央区■■■■】

私もホームページとかを見るわけなんですけど、そうするとやはり人口減と子供の出生数ですか。これは本当に少なく、あの将来の南部町どうなっちゃうんだろうって言うことを思うこともあります。このようなことに対して、町も危機感を持ちまして、このような集合住宅の計画をご提案したんだと思いますけれども、この大きい富中の場所にですね、これにつきましては、あの保育所や小学校、それから児童施設。それから図書館等がありますよね。だからあの、共働きのご家族さんたちがなんか安心して、そこで子育てができるんじゃないかなっていうような気が私はします。もし、このような賃貸住宅がなくて、だから外へ出ちゃうようなことがあったら、なんかちょっとそれは残念だなっていうような気がします。

ただ、この計画を進めるには、先ほど言いました財源とかですね、それから、グラウンド利用者とかですね、その辺がありますので、それらをクリアしながら、住宅の計画を進めていただけたらなという気がしています。以上です。

【大塩区■■■■】

家は大和の県営住宅に住んでいますが。普段日中は■■■■の嫁をしています。よろしくをお願いします。私今子供4人おいてここに来てます。1歳、4歳、7歳、9歳、4人の子供を主人に任せて、今日こういう子どもの子育て支援について、こういう会議があるから、あのちょっと行ってみてっていう風に声をかけていただいて、ここに居るんですけど、この時間なんだったのかなって正直思う時間です。あの、今、実際に子育てをしている私たちの意見って、ほとんど通ってないって思ってるんです。で、それは、さっきの話の中で、子育てしているお母さんたちにアンケートをとっていただいて、その方々が賛成をしてく

れたというふうにお話があったときに、3人でももちろんあの全員だし、10人でも全員だして意見があったんですけど、圧倒的に子育てしてる世代って少ないので、正直このままじゃ多数決で、ご年配の方々のお話だけだと私たちの意見って絶対的に数が少ないので、通らないのかっていうふうにちょっと思いました。

アンケートの結果とかそういうこと、正直わからないんですけど、なんかその話し合ってる時間ちょっと無駄だったかなって思っちゃいます。それよりも、もっと前向きに、じゃあどうしたらいいのかなっていう具体的なお話とか、具体的な案をもうちょっと住民の方々と、町長だったりとか、役場の方だったりとかと、そういう話を私は今日しにきたかなって思います。あの。若い人たち、今どれくらいいるか、本当にみなさんご存知ですか？って思うし、子育てをしている私たちが何を求めているのかって、じゃあどのくらい皆さん分かっているのかって思います。

2年前に私、愛育委員をやらせていただいたんですけど、おもちゃ図書館におもちゃがほしいって言ったときに。予算がないから今年はできないって言われたんです。たぶんその時の会長さんが、「そうは言っても」っていうことで、実際に視察をしていただいて、おもちゃ図書館のおもちゃが確かに古いとか、歴史が古いというのもある。じゃあとりあえず愛育委員の家にあるまだ綺麗で使えるおもちゃを集めて寄付をするっていう活動をしていただいた時に、みんなすごく喜びました。使ってる私たちが「来年度もこの活動をしたいと思う」って行った時に、私は「そんなおもちゃ、もういないでしょ」って言われました。未だに覚えています。あの、すごくショックだったんです。子供は増やしてほしいとか、子供産んでほしいって言うけど、じゃあ産んでる私たちにとってメリットってものがないと正直思うし、ママ友が富士宮市に引っ越してる例も何件も知っている。なんかそういうところの意見っていうのは、やっぱり反映されないのかな。結局あれからおもちゃ入ってないなって思うんです。私、東京から嫁いで10年になるんですけど、東京のいいところもあるし、悪いところもある。田舎だから良いところもあるし、悪いところもあるって、私はそう思っています。私は東京で育ってきたので、正直不便なことの方が多いなって最初思ってたんですけど、その間にコロナがあったりとかして、田舎でよかったな。正直思いました。あの、東京のように、ぎちぎちしなくても、ある程度子供がのびのび育ったなと今思ってるんですけど、ただ住宅を早急にしなければいけないっていうところでは、本当に賛同で、あの、本当に子供いないんです。遊ぶ友達いないんですよ、本当に。なんで若い人たちの数が少ないっていうところを、本当に頭に置いていただいて、その少ない数の意見を重く受け止めて欲しいってすごく思います。すみません、とても生意気なんですけど。どうか、よろしくお願いします。

【南部 〇〇〇〇】

①座っての質問になりますけれども、お許しいただきたいと思います。議会の一般質問のときにもお聞きをしました。この町の町長をはじめ、企画課長の答弁を聞いて、本日を迎えておりますけれども、これモデル事業だと思うんですよ。私推測するのにな。

今回の皆さんの意見を聞く中で、町がいち早くこの政策を進めたいんだと言うことが充分分かります。ただし、先ほどの話の中で協定の年度が令和 10 年度末。期間が 4 年間と言う中で。今回の事業を施行するには、非常に大きな課題がいくつもあると思うんですね。そしてこの 4 年間の令和 11 年 3 月 31 日までのこの期間の中で、協定上どういうことまでを事業として完成させなきゃならないのか？ということを一点知りたいですし、

②今回の事業の中で、モデル事業の中でどこまで完結をしてこの事業は協定の年度をむかえるのか。そういうことだったり。協定の中身を知りたかったっていうのが、今の話の一端にあります。それで議会の町の説明の中で、県の補助金という話も出たはずなんですけども。今回の事業に対して補助率であるとか、どのぐらいの事業費に対してどのぐらいの補助額になるのか。という事に対して議会の答弁では今のところは未定だと。しかし、今回のこの事業をするには、相当の事業費がかかってくると思うんですね。うっかりすれば外構工事だとか、周りの周囲の工事まですれば 10 億ぐらいはいくんじゃなくなっていく。そんな感覚も持ちます。実際にその事業費っていうのはわかりませんけども。ただし、その補助金たるものが、その事業費に対して本当に多くもらえるならば、これはいいことであります。ただし、町の財源を出すということになると、先ほど町長からも話がありましたけれども。町民の税金を投資するわけですからその辺についても、町としてどのぐらい予測していますと、いう事を示していただきたい。全体的に非常にタイトな計画であるなっていうことを、まあ痛切に感じます。

先ほど町から説明があったように、今全国的にどこの地方も悩んでいる課題でありますのでこういうことにやはり取り組むのは、行政がやはり中心になってやっていくしかない。そういうことだと思っております。しかし、町民の理解であるとか、賛同を得るためには数多くの課題というものが出てきますので、それをやはり説明をして、そして町民の賛同を得て、最終的に議会の承認を得ていくと言う風な形がベストではないかなというふうに私は感じています。

先ほど防災等の話も出てきましたけれども、やはりこれも非常に大きな問題になるだろうというふうに思っています。例えば富河中学校のグラウンドを、最終的な候補地になった場合に、町の防災計画上グラウンドはどういう風に使用される計画になっているのか。そしてまたそれに対する代替え地をどんなふうに確保していかなきゃならないのか。そういうことも町民、特にこの地域の人たちには理解も得ていく必要があるんだろうなあっていうことを痛切に感じます。そして地域住民への説明や理解も必要じゃないかなと。ハザードマップ上では、浸水区域 5 メートルというふうな予測値がありますけれども、災害がないことを願うばかりなんですけども、浸水ばかりでなく、南海トラフ地震と言うふうなことを予測されている中で、防災への対策。そういうものをしっかりと、地域住民に示していかなければいけないものじゃないかなって。先ほど町長からもお話ございましたように、新々ふじかわ橋の開通すでにしておりますけれども、かねてから新々ふじかわ橋の開通というものを非常に期待しております。開通して一年、非常にその交通の利便性というものが高まって

きましたけれども、その住宅に対してどういう人たちを入居させていきたいのか。たとえば住む場所を南部町にして、働く場所は富士宮・富士と。あるいは静岡方面になることもかなり予測されてきますけれども。人口を少しでも増やす。子育て支援策として、町が施策としてやっていくなれば、この協定の中で、どんな風な形で人を呼び込んでいくのか、その推進方法をどんなふうにして行くのかっていうことをですね、やはり。時間をかけずに入居者を呼び込むと言うことは、課題が多いのかなっていうことを、かなり強く思います。第三次総合計画がまあ成立した後じゃないと踏み切れなかったっていうことも一理あると思います。これと並行した事業ですが、今現在、南部の昭和町地内に 6 世帯の分譲地がございまして、今 2 世帯埋まっております。そして、この分譲地に対しての町からのお知らせっていうのは、まあ私の記憶の中では広報誌に出たこと 1 回、紙面としては見ております。それには土地の金額、面積等々が記載されておりましたけれども、今現在 6 区画のなか 2 つ売約済みとなっておりますけれども、やはりこういう事業をしてですね、町として、なるべく早く事業を完成させるんだという風な思いはあるはずなんで、今回の残った 4 区画に対して、どんな推進をしているのかっていうことも、まあ、あわせて聞きたいし、それっていうのは今回の、富河中学校のグラウンドにそういうものを作った時に、いくつかやっぱりその課題が出てきますので、そういうことを先に模索をしておいて。そして推進を図っていかなければ、出たことに対して今から追っかけよう、答えを出そうっていうことであると、なかなかやっぱりその事業として遅れを見てしまうっていうことが、非常にやっぱり懸念される材料になってしまいますので、そういうことを含めて。令和 11 年の 3 月 31 日までに、建設を完了して、仮にその協定上ですね。入居者も満室にして、そして完成品として県とのモデル事業としての完成とするっていうことならば。非常に。その事業としてタイトに取り組まなきゃならないっていうことで。課題に対する解決っていうものが遅れてしまうっていうことも、考えられますけれども。その辺をしっかりと煮詰めて、そしてしっかりとその段階的に住民に賛同を得て、最終的に議会の承認を得ると。そんなふうな形で事業を進められないかなっていうことを、まあ、総合的な回答でいいんですけども。その一点ちょっと。お聞きしたいと思います。

【町長】

今の質問ですけれども。私、頭の中に今回の事業は 10 億円使っていると思っています。まあ、これももちろん最初からそのつもりなんです。そしてその財源は、冒頭申しましたように、そのための財源は確保しております。それで、国とか県の方からの率はどうかということですが、それは、逆に先ほど言いましたように、建物自体は南部町で作ってもいいんですが、その他、子供たちを育てるための、いろんな施策として後押しをしていただきたい。それが全部人口問題に波及するんじゃないかなと思っています。

その冒頭言いました。財源 10 億という話でしたけれども、私はその財源として、皆さんにはっきり数字はこう言えないんですが。普通交付税や特別交付税があります。ここ数年だけでも 10 億くらいは蓄えています。で、今後もやっぱり表には出ないけれど、そんな形でこ

う財源的に満たそうかなと思っております。

【事務局@杉山】

事業費に関しましては、事務方としては、そこまでというのは考えておりませんが、なるべく将来のために節約しながらと考えております。

あと、昭和町の住宅宅地分譲になりますが、完成当時、ホームページにも載せましたし、山日、それから静岡県の新聞にも掲載をいたしました。で、2区画が売れました。その後、富士宮市の宅地分譲の様子で、宅地を求める方々がちょっと動き控えているのかなっていう感じも受けておりましたので、ここで少しずつまた動き始めるのかなとも感じます。今年に入りまして、一件ハウスメーカーからの問い合わせもございましたので、少しずつまた動き始めるのかなという感覚は持っております。今後、広報誌への掲載と、新聞への広告について予算を見ながら行っていきたいと思っております。

【南部■■■■■】

富士宮市ではもう進めているわけですから、向こうを買われちゃう前に昭和町を買ってもらうようなね、そういう勢いで事業を進めてほしいということなんですよ。

僕も、今回のこの会議の中で、全体的に町にお願いしたいのは、やはり先ほどから話していますが、事業としたらタイトなんです。タイトな中で、町が町民に理解を得るためにどこまでできるのか？っていうね。そこをしっかりと詰めてはっきり町民に示して、町民に賛同を得て議会の承認を得ていくっていうことでやらないと町もやりづらいと思いますよ。ですから、それが令和11年3月31日までに本当にできるのかなっていう。ちょっとこう不安を感じるんですけども。そういう意味で町長がこの今回の事業を、成功したいという気持ちにはわかるんですけども。そのやっぱり工程的な持っていく方を煮詰めてですね、最終的によかったねと町民の賛同を得て、議会の承認もスムーズな形で取れるようなですね。形を肯定的なものをしっかりと。町が作っていかないと、非常に大きい事業ですから、やっぱりそれなりの課題っていうのはもちろん出て当たり前だと思ってます。

【町長】

今の質問ですけどね。あの、実はこの計画がもしできた場合、すぐ満室になると、私は思ってます。で、こういうことを町はこれからやるんだってことを浸透させることによって、また次の段階で、そういう人たちの応募もあると思っています。万沢グリーンハイツ、宅地分譲の時も、すぐ満室、完売にはなりませんでしたが。数年かけていっぱいになり、今では出る人がいるとすぐに入ってくれる状況ですから。やっぱり町として子育てにはこうなんだっていう受け入れる姿勢を見せていかないと。それが私は狙いなんです。

【万沢西行■■■■■】

いろんなご意見、難しい問題があると思いますが、まあ、小さな意見として聞いていただきたい。ちょっと前の広報等で「グリーンハイツ一つ空きました」と聞きまして、私の息子が富士宮に住んでいまして3月に結婚したんですけど、「空いたみたいだよ、どう？」っていう連絡をしたら、「じゃあお嫁さんと相談してみる」と言っていて帰ってきた意見が、「な

んかね、色々調べたら、富士宮と、やっぱ南部町というのは子育て支援にすごく熱く、近くにも多目的広場の遊園地があったりして、帰ってきてもいいかな」っていう話で、この度契約を結ばせていただきました。

うちの子供が小さい時には友達が周りにいなくて、わざわざ親が陵草のほうとか富河のほうの友達宅に連れてったりとかして、今みたいなグリーンハイツみたいなところがあれば、なんか近くに友達がいて、同じぐらいの友達とわいわいと遊べる。まあ本当に小さな意見なんですけど、息子のような子供いますんで、そういうところがあったらいいなという思いがあります。人口減少にも本当にそういうのもあればね、あの、増やしていただけたらいいなと言う意見です。すみません。小さい意見で。

【文京■■■■】

あまり小さな。あの、お願いですので、恥ずかしい話ではあるんですけども、6月13日にこの事業について初めてお聞きして、その瞬間に頭に浮かびましたのは、あの旧富中グラウンドを利用されてる方々のことがまず頭に浮かびました。特にこちらの方にあの利用クラブ等が載ってる中で、あの南部FC、まずそれが頭に浮かんたんですね。で、お願いと申しますのは余計なお世話かもしれませんが、南部FCっていうのは、学校の部活ではなく、クラブチームなわけですよ。そうしますと、あの部活で利用しているのと、クラブチームとして利用しているのでは、たぶん、一人ひとりの気持ちって全然違うんじゃないかな？っていう風に想像してまいりました。と言いますのは、買い物途中にそこを通るものですから、今よりずっと、南部FCが小規模でやってらっしゃる頃から、イメージ残っているものですから。今に至るまでに相当ご指導される方々とか、ご努力があって今があるだろうと思った時にクラブチームでやってる子たちが、ホームグラウンドとしてどう捉えたんだろうっていうことと、今回のことが重ね合わせられまして。で、簡単に申しますと、「僕たちのホームなんだ」って思っていた子供たちが、「代替地はこちらですよ」っていうふうに、きちんとしたグラウンドを考えてくださっていてもホームだという思いでいたのが急に変わって。今、どういう思いを持ってらっしゃるんだろうか？っていう。小さなことなんですけれども。それが私の中では、あの教育長さんもいらっしゃいますし、この中に南部FCの関係者の方がいらっしゃるとしたら、子供たちのその代替地に移ったときの気持ちの変化とかのご指導を大事に考えていただきたいなことだけなんです。あの、すごく小さなことで、言うほどのことでもなかったんですが、あの冒頭で課長さんがとても微笑ましい、小学三年生が企画課にいらして、将来僕はって言う、とても微笑ましい話がありましたので、その辺のレベルとして考えて、ちょっとあの発言させていただきました。どうも失礼しました。

【企画課回答】

(追加) 関係課とも連携を密にし、代替地への移動にかかわる要望には、出来る限り応えられるように努めてまいります。また、本住宅整備が実現されることになれば、チ

ームの人員確保にも寄与できるものと考えていますので、今後ともよろしく願
いいたします。

【万沢 〇〇〇〇】

皆さんの話を色々聞いていて、まあ自分も感じたんですけど、最初の県との協定について。
この内容が正直って何のことだかわかりません。町の広報とかに載っているわけでもない
し今まで報道された中でも、ただ協定結んだということがマスコミ等で放送されていてね、
どのような協定を結んで、町に対してメリットがあるとか、そういう事も分かればね、良か
ったなと思うんですけど。今日この会議で、まずその説明があまりにもちょっとね、なん
とかなったのかとかいうか、丁寧さがなかったのが残念でなりません。その点についても、も
うちょっと詳しいことを、まあ後日また教えてもらうってことですので、よろしく願
いいたします。

またこの事業計画に対してですね。予算について聞いたかったんですけど、先ほど 〇〇〇
さんが色々聞いてくれた中で、町長のほうから大雑把な金額が漠然とした中で出されたわけ
ですけれども、最初にこの事業の進めに対して、やっぱりお金があって、いろいろ考えた
中で、ああ、それだけのお金もかけても、これに対してこういう建物が必要なのかという
ようなことを考え結論を出すには、そういう予算的なこともある程度、「今、概算の時点
で、これくらいお金をかけても、我々は今子育て世代を手厚くして、町に人口を増やした
いんだ」っていうところの熱意を、見せてもらえればよかったなと思います。あの説明だ
けが、なんかこう、僕から言わせるといいわけじゃないけれども、長くて、もっと短く簡
潔にね、説明や回答してもらって、一人でも多くの人がいいろいろな質問ができたならよかっ
たなって思います。予算はあるからってことで話を聞いたんですけど、またその財源は、
町の予算で単独でもできるっていう話も聞きました。まあでも、大きい事業をやるのにね
。あえて町単独の予算でその予算はもっと使い道がいろいろ考えた時にあるんじゃないか
な。ということがちょっと疑問になりました。建物に対して町単独の予算でやるという解
釈でいいんですね。

【町長】

10 億っていうのは、決まったわけじゃないですよ。この施策には「そのぐらい出してもい
いですよ」ということです。その場合には充分蓄えてある。基金や特別交付税を有効的に活
用していくということを私、頭の中に入れております。

【 〇〇〇〇】

例えば今度それに対して、国からの補助とかそういうのは、やっぱり出来ないですね。今日ま
でのことができるわけじゃないですね。

【町長】

今回、住宅事業すすめるにあたって県がどうするのかってことも、国からもらうっていうつ
もりはありません。私は、はい。

【企画課回答】

(追加) 国からの補助金となりますと公営住宅法に関係してくることが考えられます

ので、考えていません。県の補助金については、状況によって対応させていただきます。

【 】

例えばね、この建物自体が今ちょっと考えているのは、ええと、プレコンかな。RCですかね。まあ、予算積んだ時に例えばね、これ木造であった場合に、まあ木造でも高層住宅もどんどんできるような時期ですよ。これ木材だった場合に、例えば国とか県のあの補助事業としてね、その木材を使って、そういうものを建てるに対して補助金が出ますよとか、そういうことはないですかね。

【町長】

今言ったように木造の場合は、その場合には当然こちらでも有利な方を選択しますよ。また、最初のご質問の中で、この事業自体の業者が決まっているように言っていましたけど、とんでもございません。そんな話一切ありません。本格的に実施となれば、業者の選定方法や建築方法等を、これまた議会と話をしながら進めていくつもりです。

【 】

あの、できればね、そういうものが細かいところまでちょっと勉強してもらってできる限りの補助金、補助対象事業の中で事業を進めるだったら、ぜひその道を選んでいただけたらなと思います。

それから。考え方ちょっと違うんですけれども、今、県営住宅がすごく空いてるってことは、先ほど説明を受けました。そうした中で、知事の方は全面的に協力するから頑張ってもらって下さいって文言が出たものですからね。例えばそこで県の方も予算を使ってもらって、県営の改修とか、いろいろ若い人たちも住めるような体制にってもらって、それを若い人に提供する。県のほうで収入によって家賃の計算がされるから、なかなか思うようにできないという答弁を受けたんですけれども、例えば町の子育て支援事業みたいな形で、家賃の補助金を出してやって、ある建物を有効活用するっていうことはできないですかね。

【町長】

それ、あの議会との話もありました。実は現状、今空いてますね。それは、所得制限の問題もありますが、実は部屋の中でカビが発生しやすいとも聞いていますので、若い世代がそういう所を望まないのは無理もないですね。ですから、そこを県が徹底的にお金をかけて直そうとまでは、県は考えないはず。我々もそれは当然今まで何回も言いました。住宅課に行き、交渉しましたが、良い回答を受けていません。

【 】

じゃあ例えばそのね、リフォームに対して町で補助事業何とかならないのか。

【事務局@杉山】

契約は、県と入居者ということになっておりますので、町をいっさい通していません。

【 】

色々こう意見あったんですけれども、まあこれから先、この事業をね、進めていく中で、ま

あそう簡単に進んで行くことはないと思いますけれども、まあこういう説明会もですね、やっぱり膝を交えて細かいことの説明会は短期集中でやってもらって。あ、今後の進行計画はどのように考えていますか？

【事務局@杉山】

この後の住民説明会等は、今のところは予定をしておりませんが、今後、状況に応じて対応させていただくということと、あと一点先程来でております協定内容でございますが、確かに協定書の写しまでは、公表しておりません。ただ、その協定内容につきましては、広報およびホームページでも公表しておりますので、ご覧頂ければと思います。

(追加) 協定内容の公表については、一点訂正がございます。

ホームページ上での公表については、4月1日付けで行っておりますが、広報へは掲載してございませんでした。訂正してお詫びいたします。また、説明会后「協定書の写し」をホームページに追加掲載いたしました。

【南部■■■■■】

住民説明会、これで終わりのような、ちょっとニュアンスを受けてるんですけども、そういうふうにもう一点考えているってことですか。

【事務局@杉山】

今現在、まだ予定は無いですが、状況に応じて、これから対応させていただくということでご理解いただきたいと思います。

【南部■■■■■】

ただしね、まあ、今回これだけの、まあ参加者がいて、いろいろな意見が出ている中で、やっぱり町が町民に対して、この参加者に対してどういうことを2回目として示していかなきゃならないっていうことは、わかっていると思うんですよ。感じたと思うんですね。じゃあ、そういった課題に対して、町民に対してどういう周知をしていくんですか？

【事務局@杉山】

えっと、その周知というのは

【南部■■■■■】

お知らせです。お知らせ。

あの質問に対してのお知らせを答えること。議会へ議案として持っていくことは、定期的にそれができると思うんですよ。形として議会の承認を経て議決だっという形をもちろん取ることはできると思いますが、今回これだけの人が来て、いろいろな質疑が出て、そして町民のその考え方や意見に対しての課題がまた残ったと思うんですね。それをどんな形で町民にお知らせをして、そして事業の進捗を図っていくんですか？っていうことを一点お聞きしたいんです。

【事務局@杉山】

今現時点で、できる限り、ご質問にはお答えをしているつもりではございますけれども、ま

だこれ以上、質問がある場合にはですね、企画課にご連絡いただければ、ええ、それに対してお答えをいたしますし、もしそれがたくさんであれば、またそれに対して、住民の説明会等も開かせていただきたいなと思います。

【南部 〇〇〇〇】

先ほど出たその防災対策って言うことを一つ。大きなことだと思うんですよ。ただし、南部町では大きな地震を構えたことがないので、それに対する対策っていうものができていると思うんですけども、富沢中学校のグラウンドに集合住宅を建てたと。そこが防災計画上どうなっているのかっていうその対策を特にこの地域の人たちに、どういうふうにお知らせしてたりするんですか？

【事務局@杉山】

今現在、富河中学校が仮設住宅の設置場所になっているかと思いますが。富中の空いている土地に、もしそのような災害があった場合に建設をするとか、ほかの代替地を、その状況に応じて判断をしながら対応するということで、交通防災課とも協議を始めさせて頂いております。

【南部区 〇〇〇〇】

私が言いたいのは、決してこの事業に反対するってことじゃなくて。今から子育て支援対策ですね。進めていくことが重要なんですけども、積みあがる課題に対して、解決策をしっかりと立てて結果を出しながら前に進んでほしいというのが、私の考え方なんですよ。

私もいい経験をしたんですけども、グリーンハイツ富士見が出来て 10 世帯の宅地分譲が終わったとき、その 10 世帯の自治会への参入っていう大きな問題にも取り組んだこともあるんですけども。これも今後大きな課題になると思うんですね。特にその集合住宅の若者世代の住宅になると思いますので、じゃあそういった若者が自治会を積極的に参加できるのか、できないのか、そういうことをしっかりと町が煮詰めてですね。そして入居しやすく、また住みやすく、そして地域の人と。コミュニケーションが取れると。まあ、そんなふうな。理想的なですね。形を今後しっかりと、やっぱり作っていかないといけないと考えます。そして、課題を先送りせずの一つ一つ解消させる。住みやすさを表に出せるような形をしっかりと町が政策としてつくる。先日の定例会の答弁の中で、計画書がいつ作成するっていうことを。私、聞いたと思うんですけども。その計画書っていうのはいつ完成するんですか？

【事務局@杉山】

今現在この説明会をしている中で、候補地がまだ選定されていない状態になっておりますので、具体的なその計画書っていうものは、まだ作成ができない状態です。で、先ほど県の補助金というお話があったと思うんですが、その県の中でもですね、その補助金を創出する際には、そういう計画書が必要であるとは、常に言われているので、ある程度その住民の皆様の同意が取れて、計画書が作成できる状態になれば、すぐに作成をし、それも周知をしながら県にも提示をして行きたい。

【南部■■■■】

今回の事業の中で計画書ができる前にことを進めるってことは無理だと思うんですよ。ですから私、今、計画書はいつできるのか、そしてその計画書に準じて物事を、事業を進めていくっていうのが一つのあの工程になると思うんですけども。ですから、その計画書っていつ完成するんですかと。

【事務局@杉山】

もちろん、承知しているところです。計画書を作るにしてもですね、場所の選定ができないと、その広さ等が確定しないと、計画書ができないので。

【南部■■■■】

そうすると計画書の完成時期も未定なんですか、今。現時点では一応。そして事業を令和 11 年の 3 月 31 日までに完成させようと。

【事務局@杉山】

その場所が選定されていないので未定です。計画書を提示するってことが出来ないってことで、ご理解をいただきたい。ただ、今ゼロなのかって言われると、それはある程度担当の職員の中では、県の職員と話をしながらイメージは出来ています。

【南部区■■■■】

期限がないばかりに、町の事業の進め方に若干クエスチョンがつくんですよ。町民の賛同をもらうために何回かやっぱりこういう場を設けて町民に理解を得られるような形を取っていかないと。そうじゃないでしょうか。

【町長】

いいですか、あの今。今回はいろんな人の意見を聞くということですから。まだまだ言いたい人があるはずですから、まずその人たちの意見を聞かないとですね。

【■■■■】

先ほどね、あの、いろんな意見がありまして。私、今日ここに来たのはねこの子育て支援、住宅整備に係るえっと、建設候補地の設定と説明会ですよ。ちょっと楽しみにしてきました。もう私も 70 ぐらいになるので、あとどのくらい生きられるのかなって思った時に、やはり若い世代はね、本当に魅力のある世代をここに置くには、やっぱり住宅ってのが必要だと私も思っていました、個人的に。で、その候補地が富河中学校だと聞きまして。あの、やはりそこでソフトとかね、いろんな人たちがやってる。長年何十年やってきた人達のことを考えると、私もあのバレーボールやってまして、スポーツを愛する者として、あの人たちがどうなるのかなって思ったのも正直でした。なので、その人たちに対しては、今後も町と相談しながら。いい形の中で進めていただきたいし、やはりあの若い世代、ここに本当にほかを見渡したときに、あんまり若い世代がいなくてちょっと残念なんですけれども、ぜひ、あの私は残された人生を、やっぱり若い人たちに何か恩返しができるのかと思っていますので。どうか、あの。町長はトップですよ。町のトップです。そして、あの企画課の杉山さんがだいぶお疲れのような顔してますけれども、多分一生懸命考えて、今ここにいろんなあの調

べてきていると思うので、私は信じます。そしてまた今日出た意見をいろんな意味で検討していただいて、あのまた良い報告をしていただければありがたいかなと思いました。あの時間ももうね、9時45分過ぎまして、時間も押してますから。あの、そんな形になって私言ったらおかしいでしょうね。以上でした。ありがとうございました。

【事務局@杉山】

一言。私の方から、今日出されたご意見が、皆様からたくさんで、一気にご質問いただいたので、なかなか私の方も全てにお答えすることができなかったと思います。今回、冒頭申し上げた通り議事録のために録音もしておりますので、それをもう一度担当課で掘り下げて、すべての質問に対してしっかりと、お答えをしてホームページ等で公表をさせていただきたいと思います。で、それでも何か質問があるのであれば、また要望にお応えして、住民の説明会を開かせていただきますので。本日はそれでご理解をいただきたいと思います。

【 】

今、 さんが。申した意見とほぼ同じようなものですがけれども。今後多くの若者に移住定住をしていただくためには、良い環境での、まあ住宅の提供が必要不可欠ではないかと思えます。それはまあ、富河中学校の跡地というのは非常に良い環境で、これ以上のところはないなあっていう思いがあります。僕はこの事業がうまく成功するように祈っております以上です。

【万沢 】

もう時間も時間ですので、もう10時になります。最後に、万沢の御屋敷です。ここにあの立派な。子育て住宅のグリーンハイツが建ちました。7年から10年ぐらいたってますでしょうね。それで、今ではすごい活気のある元気な子どもたちの歌声や遊ぶ声なんかが聞こえてきます。私はうりやなすとかいっぱい作っているのですね。『食べない?』なんて聞くと、子どもたちが『うん、食べる食べる』なんて言ってくれてね。二本でも三本でも持っています。でも、それもいいんじゃないかなって思いながら、『どう?住み心地は?』って聞くと、『うん、いいよ。すごくいい。富士宮へも近いし遊びにも行けるからいいよ』って言ってくれます。

で、土日になるとこんどは廃校になった万沢小学校へ遊びに行きます。本当に活気のある万沢ですので、安心してください。あの結果論ですから、どうぞよろしく願います。以上です。

【司会】

どうもありがとうございました。全ての皆様からご意見を頂戴したいところでございますが、お時間の都合もございまして、以上にて、ご意見の方を締めさせていただきたいと思えます。先ほど、課長の杉山からも申し上げた通り、平日8時15分から15時17時15分の間、企画課にお問い合わせ頂いたり、また封書・投書でも構いません、是非、引き続き皆様からのご意見をお寄せくださいますと幸いです。また、本日の議事録等につきまして、またこの度回答しきれなかったご意見への回答等の公表につきましては、企画の方で

検討させていただき、皆様に伝わるような形で公表できればと思っておりますので、何卒、よろしくお願いいたします。それでは、本日は大変ありがとうございました。多くの貴重なご意見を頂戴することができました。最後になりますが、次第の5. といたしまして、佐野町長より皆様にまとめのご挨拶を申し上げます。町長お願いいたします。

【町長】

長時間にわたりまして、本当にご審議ありがとうございました。いろんなご意見がございました。ここに来るまでにやはり実際使っている人たちの意見もお聞きしてあります。そして、今回の意見を踏まえながら、再度また今日、全員ほとんどの議員さんが出席しておりますから。議員さんと一緒になって協議会を開きます。そして今後どうするのか。一つには、もっと説明会しなくちゃいけないという声が多ければ、それはまたそれで進めますし、いや、そうじゃなくて、これをやろうということになれば、それはそれで進めます。ですから、まず全員協議会を開くということをおみなさんにお約束をして、その結果を皆さんにご報告いたします。それでよろしいでしょうか。本当に遅くまでありがとうございました。

【司会】

以上をもちまして、子育て支援住宅整備に係る建設候補地選定等の町民説明会の方を閉会とさせていただきます。大変長時間にわたり、ご参加いただきありがとうございました。どうぞお忘れ物のないようお手回り品をご確認の上、お気をつけてお帰りいただければと思います。どうもありがとうございました。

別紙 交通防災課の見解

今回の子育て支援住宅整備に係る建設候補地について、防災の観点から説明いたします。
防災対策には明確なゴールがないため、どの地域においても最悪の事態を想定し、臨機応変な対応が求められます。

例えば、町内のほとんどの家屋が倒壊するような状況を想定した場合、100%の防災対策を目指すことは現実的に難しく、利用可能な土地の面積や施設の収容数が不足しているのが実情です。

防災面でどの程度の土地を確保すれば十分かを判断するのは容易ではありません。

しかし、可能な限り対応するために最低限の町有地を確保するとともに、民間企業や他自治体との災害協定締結を進め、国や県、災害ボランティアの支援を受け入れる体制作りを目的とした「受援計画」の策定など、多方面からの防災対策を講じております。

現在、建設候補地として挙がっている旧富中グラウンドは、緊急避難場所および災害時の応急仮設住宅設置候補地として、地域防災計画内で既に指定されていますが、周辺には富沢小学校、富沢野球場など広い町有地が複数存在しており、これらの施設を代替施設として活用することが可能です。

また、令和 8 年度に予定されている県による浸水想定区域の見直しについても、旧富中周辺は富士川と福土川の合流地点として現時点で既に対象区域として反映されており、現行のハザードマップに大きな変更はありません。

一方で、他の候補地は、広い代替施設が近くに存在せず、家屋倒壊が想定される氾濫流区域や土石流警戒区域に指定されていることから、浸水や土石流の危険性が想定される区域であるため、防災の観点から適地とは言い難くなります。

また、旧富中周辺は役場本庁舎が隣接しているため、災害時には災害対策本部の設置を迅速に行えるほか、ドクターヘリや災害支援のヘリが着陸できる場所も近隣にあるため、緊急時の対応体制が整っています。これにより、地域住民にとって災害時の安心感も大きく向上します。

以上の理由から、防災の観点を踏まえても、今回の候補地である旧富中グラウンドは建設地として十分な妥当性があると言えます。

また、人口減対策と防災対策の観点から考察しますと、人口を増やすためには、住む場所の確保が必要です。

一方で、人口が増えると災害時の避難人数が増加し、それに伴い避難場所や災害廃棄物の処理場所、仮設住宅、支援物資の受け入れ場所などを確保する必要があります。

しかし、住む場所を増やすと防災対策に活用できる土地が減ってしまうため、これらの対策は互いに矛盾する関係（逆相関関係）にあると言えます。

さらに、若者の人口が少ない場合、災害時に協力できる人手が不足します。

一方で、若者人口を増やすには、住むための場所を確保しなければならず、これも防災対策用の土地を圧迫することになります。

このように、人口対策と防災対策には難しいバランスが求められています。

今回、町では人口対策を優先事項として、子育て支援のための集合住宅を建設するために町有地を活用する予定です。

その代わりに、防災で利用している町有地を代替する計画を進めています。

これにより防災に使える土地は減少しますが、若者人口の増加により災害時の協力者を増やすことができるため、長期的には災害対応力の向上につながると考えています。

さらに、賃貸集合住宅等の空き室については、被災者の一時居住場所としての利用が可能となっています。